

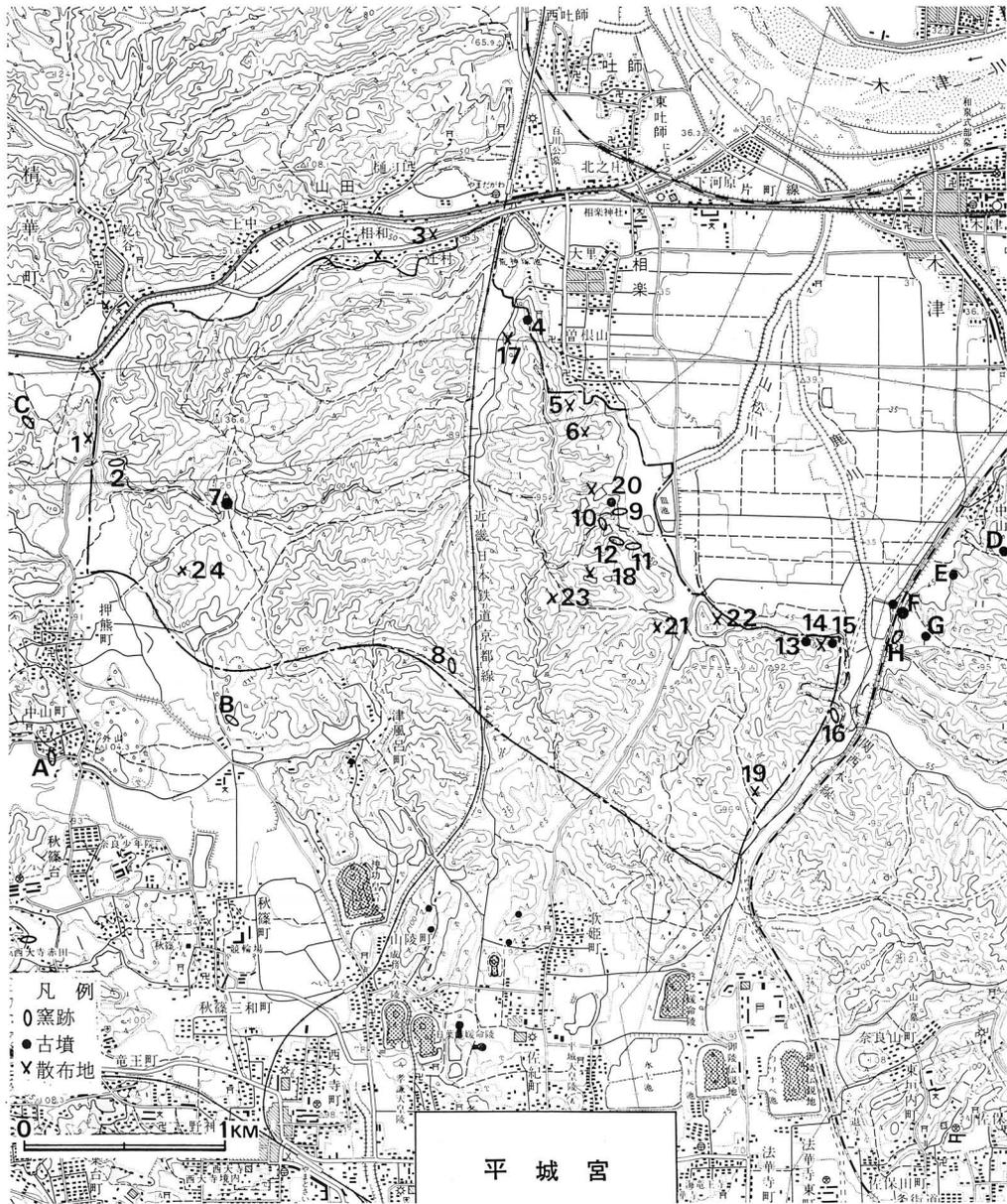
I 調査のあらまし

平城宮の北方には、東南から西北にかけて奈良山丘陵が連なっており、丘陵やや北寄りの位置に京都と奈良の府県界が通っている。1964年に日本住宅公団によって、この丘陵一帯に平城ニュータウンの建設計画がたてられた。この計画は京都府相楽郡木津町・精華町と奈良県奈良市にまたがる延べ 600haにわたるもので、住宅18,000戸が計画された。この一帯は従来から瓦窯等多くの遺跡の存在が知られており、造成予定地について1964年12月から翌年3月にかけて、遺跡の分布調査を行い、その後の確認地も含めて計24地点を確認した。遺跡には便宜的に地点番号を付して、以後継続的に予備調査を行ってきた。

1970年には7月から8月にかけて第8号地点の発掘調査を行い、瓦窯3基を確認した。（「奈良山第53号窯の調査概要」平城団地第8号遺跡調査委員会 1971.6）。1972年度には7月から翌年の1月にかけて計12地点で調査を行った。第2号地点（押熊瓦窯）で瓦窯6基、第12号地点（歌姫西瓦窯）で瓦窯6基と須恵器窯2基を確認するなど、平城宮の造営に伴う瓦窯についての分布と構造およびその変遷を明らかにし得た。また、第13号地点・第15号地点・第20号地点（音乗谷古墳）で古墳を確認した。奈良山丘陵南裾部には多くの古墳が現在もよくその形をとどめているが、丘陵北裾部にもこれら古墳の分布を確認した意義は大きい。（「奈良山」奈良県教育委員会 1973.3）。引き続き1973年度には10月から11月にかけて計5地点で調査を行った。ことに第9号地点（音如ヶ谷瓦窯）では、瓦窯が法華寺阿弥陀浄土院の造営に関連することを確認し、また多数の柱穴を検出して瓦工場の存在を予測せしめ、さらに広範囲での調査の必要性が明らかとなった（「奈良山Ⅱ」奈良県教育委員会1974.3）。

その後、造成工事の遅れに伴って発掘調査も一時中断していたが、ようやく本年度にいたって調査が再開された。本年度の調査は、1972・1973両年度の調査にもれた地点および再調査が必要な地点をとりあげ、当初の分布調査であがった地点のうち造成事業地外となった地点を残しては主旨本年度をもって予備調査に一応の結論を得、今後の遺跡の保存整備計画に資することとなった。従来未調査であった地点として第6・7・14号地点を、既に調査している地点の再調査として第5・9・13号地点をとりあげ、1月8日から3月31日にかけて計6地点延べ2,800㎡を発掘した。第7号地点（石のカラト古墳）では、上円下方墳としての形状と墳丘築成過程とが明らかとなった。第9号地点（音如ヶ谷瓦窯）では1973年度に続いての再調査によって瓦窯と排水溝・作業場等の関連施設との全体構成とその変遷が明らかとなった。第13号地点では1972年度に続いての再調査によって古墳の形状と位置についての従来の解釈を改めることとなった。第5号地点（大仙堂）では、現在も名残りをとどめている墓地「ハカヤマ」と密接な関連を有する中・近世の仏教施設の存在を推測するにいたった。

今後、これらの遺跡が団地造成の中で積極的役割を果たし、住環境の中で位置付けられていくことを望みたい。



第1図 平城ニュータウン予定地内および付近遺跡分布図

- | | | |
|-----------------|---------------|------------|
| A 中山瓦窯 | B 奈良山 51・52号窯 | C 乾谷瓦窯 |
| D 西山塚古墳（円墳） | E 瓦谷古墳（円墳） | F 市坂古墳（円墳） |
| G 上人ヶ平古墳（前方後円墳） | H 市坂瓦窯 | |

平城ニュータウン予定地内（一点破線内）に所在する遺跡（アラビア数字）
 については、右表を参照されたい。

所在地	地点	遺跡の種類	調査期間	調査面積	備考
京都府相楽郡精華町柘榴	1	瓦 窯			事業地外
〃 相和	3	散 布 地			〃
木津町曾根山	4		1973年11月15日～11月16日	30㎡	遺構なし *3
〃 〃	5	寺 跡 ？	1972年10月 3日～10月21日 1979年 3月 6日～ 3月12日	545㎡ 50㎡	大仙堂 *2
〃 〃	6	散 布 地	1979年 3月 7日～ 3月12日	38㎡	遺構なし
〃 音如ヶ谷	9	瓦 窯	1953年 4月29日		1 基
			1972年10月11日～10月16日	8,000㎡	*2
			1973年10月30日～11月 4日	969㎡	1 基 *3
			1979年 1月 8日～ 3月31日	2,100㎡	3 基
〃 〃	20	古 墳	1972年10月16日～12月27日	125㎡	円墳？ *2
〃	17	散 布 地	1973年 1月 9日	950㎡	遺構なし *2
〃	7	石のカロト 古墳	1979年 1月 9日～ 3月31日	313㎡	上円下方墳 保存計画
奈良市山陵町別当谷	8	瓦 窯	1970年 7月20日～ 8月31日		3 基 *1
〃	24	散 布 地			
押熊町字堂頭	2	瓦 窯	1972年 7月 3日～ 9月28日	1,110㎡	6 基 *2
歌姫町	10	須 恵 器 窯	1972年10月 6日～10月11日	30,000㎡	1 基 *2
〃	11	〃	1972年 7月31日～ 9月28日		1 基 *2
〃	12	〃・瓦窯			2 基・6 基 *2
〃	13	古 墳	1972年 9月25日～10月 5日 1979年 1月13日～ 1月26日	125㎡ 200㎡	墳形不明 *2
〃	14	散 布 地	1979年 1月20日～ 1月25日	132㎡	遺構なし
〃	15	古 墳	1972年 9月25日～ 9月29日	60㎡	円墳 *2
〃	16	瓦 窯	1953年 9月		1 基 事業地外
〃	18	散 布 地	1973年 1月 8日～ 1月12日	20,000㎡	遺構なし *2
〃	19	〃	1973年 1月12日	2,650㎡	〃 *2
〃	21	〃	1973年10月18日～10月25日	4,322㎡	〃 *3
〃	22	〃	1973年10月26日～10月30日	81㎡	〃 *3
〃	23	〃	1973年10月29日～10月31日	3,137㎡	〃 *3

第1表 平城ニュータウン予定地内遺跡調査一覧（ゴチックは本年度調査）

既報告書

- *1 「奈良山第53号窯の調査概要」 平城団地第 8 号遺跡調査委員会 1971.6
- *2 「奈良山 平城ニュータウン予定地内遺跡調査概報」 京都府教育委員会 1973.3
奈良県教育委員会 1973.3
- *3 「奈良山一Ⅱ 平城ニュータウン予定地内遺跡調査概報」 京都府教育委員会 1974.3
奈良県教育委員会 1974.3



図版 1 奈良山丘陵全景 平城宮上空から